

「第5回 日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum」でシンポジウムに参加しました (2022/6/26)

テーマ：過去から学ぶ災害時医療への対応 ～業務継続計画（BCP）の重要性と策定までの道のり～

場 所：WEB 開催

URL：<https://jshp-fpf5th.org/index.html>

2022年7月16日（土）～7月31日（日）にWEB開催予定の日本病院薬剤師会の第5回 Future Pharmacist Forum に、佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）がシンポジストとして招待され、病院BCP（業務継続計画）についての講演と討論の収録を行いました。

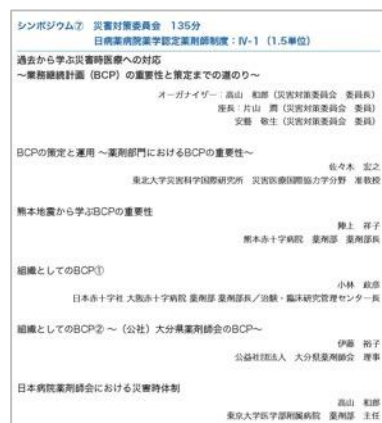
日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum は①最新 TOPICS の周知と相互理解、②現在及び将来の医療環境で求められる薬剤師業務の提案、③薬剤師の資質向上と次世代を担う人材の育成、を目的として、2018年より開催されています。コロナ禍を鑑み、2022年の第5回はWEB開催となりました。佐々木准教授は6月26日（日）に同会災害対策委員会の企画した「シンポジウム⑦過去から学ぶ災害時医療への対応 ～業務継続計画（BCP）の重要性と策定までの道のり～」の収録に臨みました。座長は、石巻市立病院薬剤部長片山潤先生（宮城県病院薬剤師会会長）、長崎大学病院薬剤部安藝敬生先生が務めました。

病院には欠くことのできない部署が多く存在し、薬剤部門もその一つです。薬剤部が機能不全に陥るだけで病院全体の機能維持が危ぶまれます。薬剤部門のBCPはどのようにあるべきか、現状と方向性についてパネリストが活発な討論を行いました。佐々木准教授は、東北大学病院全体のBCP策定過程や苦労談、事業継続マネジメント（BCM）のあり方について多くの質問を受け、経験から得られた知見を紹介しました。パネリストには熊本赤十字病院薬剤部長や大分県薬剤師会理事等があり、被災経験に基づいた薬事機能維持についての知見が紹介されました。

薬剤師は大きく分け、病院薬剤師と薬局薬剤師があり、所属する会や業務も大きく異なります。国の施策として医薬分業が進み、院外処方箋発行率が高まったことから（例：東北大学病院の院外処方箋発行率は98%程度）、災害時の病院機能維持・再開においても薬局の開業状況がリンクしないと患者さんの手元に薬が届かない、といった状況が発生してしまいます。また、災害時に薬局薬剤師が県域を超えて支援活動を行うためには、法的にクリアしなければならない課題があることも分かりました。宮城県災害医療コーディネーターを務める佐々木准教授は、シンポジウム参加で得られた知見を、災害時の災害薬事コーディネーターとの協業に活かし、薬剤流通、薬剤師支援作戦立案に活用しようと考えました。



第5回日本病院薬剤師会
Future Pharmacist
Forum ポスター



シンポジウム⑦プログラム



シンポジスト及び座長
(上段中央が佐々木准教授)